

ふるさと再発見

～重源上人の里 みてある記～

(十二) 伝説の色いろ

① 御馬ごまの麦畑の雑草封じ

東大寺再建のため杣山から切り出した用材を、運ぶ人手が足りず困っていた重源上人は、麦畑の草取りで多忙な村人に手伝ってもらおうよう呼びかけました。御馬の百姓たちは「東大寺様の木材なら、何はさておき、お手伝いしよう」と快く引き受け、25mもある巨木を佐波川の下流へ流すことができました。重源上人は奇特定の御馬の百姓のお礼に「今後、御馬の百姓には麦畑の草取りは無用に」と、雑草封じの祈祷をしました。それ以来、御馬の麦畑には草が生えなくなったということです。

② 横野の虫つかずの大根畑

重源上人は東大寺への用材運搬は農繁期になると人手不足で人集めに困っていましたが、下八坂の横野の百姓は大根畑の虫取りの作業を止めて木材流しに加勢しました。重源上人はその労苦のお礼に、虫封じの祈祷をされたため、その後は横野の大根畑には虫がつかなくなったということです。

③ 鉢窪はちくぼの正月飾り無用の伝承

冬になると雨が少なく佐波川の水位が下がり、八坂と小古祖おごその境にある鉢窪の淵では、材木は溜まる一方で下流に流れなくなりました。重源上人は水路の修理のために協力を呼びかけましたが、正月の支度で誰も集まりませんでした。しかし、川下の一族が自分の仕事をやめて、凍てつく冬の川に入り、水路の修理をしたおかげで、溜まった材木を流すことが出来ました。重源上人は献身的な働きに対し、今後は正月飾りをしなくても、良い正月が迎えられるように、加持祈祷をして労をねぎらいました。

④ 小古祖の夫婦岩

小古祖の片山の旧道沿いに、夫婦岩という自然石が二つ並んでいて、いつも花柴が供えられています。当時の佐波川はこの辺りを流れ、東大寺用材の貯木場があったようで、番小屋で見張り番をしていた夫婦は、あるとき、前夜からの大雨で川があふれて貯木場に押し寄せたので、流出しそうな大木をつなごうと、流れに足を取られ、あっという間に夫婦とも濁流にのまれてしまったということです。後日、村人たちはこの夫婦を哀れみ、小屋跡に陰陽の石を並べて、ねんごろに二人を供養しました。それ以来、夫婦岩と呼び、現在に至っています。子供の夜尿症に豆腐や油揚げを供えて拝むと御利益があると言い伝えられています。

この他にも色々と伝説がありますが、地域の人々が重源上人の事業に少なからず係わっていたことが伺われます。

(法光寺 東堂 松尾宗茂しゅうも)